

“the weavers of ROSARIUM”における

生成AIに対するスタンス

2026年3月10日(火) 公開
the weavers of ROSARIUM

◎

はじめに

こんにちは、the weavers of ROSARIUMの◎です。

昨今、日本政府の発表する著作権管理の新制度などから、生成AIを取り巻く問題は更に加速していると考えております。私も繰り返し、この問題について、SNSで提起し、思考し、時に強い言葉で訴えかける事がありました。

しかし、この問題が長期化しているにあたり、そろそろ、自身のスタンスを何度も直接ポストする事は建設的でないと感じ始めています。

とはいえ、生成AIを肯定、使用する人々、規制を求める人々の間には多くの溝が横たわり、規制を求める人々の間でさえ、温度感の相違などで疑心暗鬼の空気が漂っている事は否定できません。

これらの環境を理由に、弊サークルの生成AIに対するスタンスを、この場を借りて、ある程度詳細に表明する事にしました。

この表明は決して、全てが永久的なものではありません。

多くの人が様々な意見に触れて自身の意見を変えていくように、今後、生成AI自身やそれを取り巻く問題が新しい進捗を見せれば、この表明内容も変わる可能性があります。

本題

弊サークルの生成AIに対するスタンスを、以下の3つを軸に明示いたします。

- I. 生成AIを容認しません
- II. 生成AI不使用宣言はいたしません
- III. 身近な生成AI使用者との付き合いについて

I.生成AIを容認しません

生成AIはその成り立ちからして人権を侵害したものです。

まず、データセットに含まれているデータには無許可のものが大量に含まれています。これはイラストや小説、写真や音楽等の芸術作品に限りません。日々のSNSのポスト、個人情報、そしてどこか誰とも知らない他人の性的なデータもまた、無許可でデータセットに含有されています。

ユーザーが求めれば、生成AIはそれらを用いてあらゆる加工ができるようになっています。

今は規制したサービスもありますが、過去は、ユーザーの指示があれば他人の裸の写真を使って他愛のない日常的な写真を性的な写真に挿げ替える事も可能でした。

データは、web上にアップロードされれば殆ど誰かが閲覧できるようになっています。しかし、それは他人が勝手に改変して良いものではなく、また、本人が同意を持ってアップロードものかどうか不明です。

許諾のないものを勝手に使用する事は倫理的に問題行為であり、性的な画像などもっての他です。

さらに、生成AIを動かす為に電力消費量が爆増し、たくさんのデータセンターが必要になっています。既に人類が自然破壊を行い、地球温暖化が問題になってる中で、その問題を加速させているという事です。

日本でも多くのデータセンターの建設が予定されており、その建設場所やデータセンターの非常用電源による公害とも言うべき状況が生まれています。

そして、生成AIは今各地で勃発している戦争にも使用されるようになりました。生成AIは、我々がそれを使用する際のプロンプトや画像データも学習しています。生成AIを使用すれば、その使用データはどこかの戦争に転用される可能性があるという事です。

また、生成AIは法律で規制されていないという声が多いですが、人間は法律に従っていればなにをやってもいいロボットではなく、自身で考えて倫理に即した行動ができる一人の人間です。倫理とは法よりも前にあるべきものです。

他人の安寧と地球の未来を薪にくべる行為に、加担する必要などありません。その価値は生成AIにはないでしょう。

上記をもって、私は生成AIの存在を拒否しております。

II.生成AI不使用宣言はいたしません

生成AIの内容を拒否こそすれ、生活に入り込んでいる生成AIの全てを完全にシャットアウトして生きる事は日に日に難しくなっています。

私達が使っている携帯端末、コンピューターのシステムには、既に生成AI機能をOFFにできないものもあり、慎重にならなければ、いつの間にか自身のデータを生成AIに提供している可能性もあります。

人間は常に精神を安定させ、同じ能率で動ける生き物ではありません。仕事や学業、人間関係に疲れ、脳がうまく動かない時も少なくはない中で、あらゆる場所に（時には意図的に隠されて）存在する生成AIの使用を完全に避ける事は非常に難しくなっています。

残念ながら、あらゆる分野において、自信を持って「生成AIを使用していない」と胸を張って言える状況ではなくなりました。

さらに、生成AIに対抗するために、生成AIを用いる必要も出ています。イラストに施す一部の学習阻害フィルターは、生成AIを使用してテストしなければその効果を実証できませんし、私がサイトで使用しているCloudflare社のAIクローラー阻害機能”AI Labyrinth²”には、生成AIが活用されています。

このような事実を伴っている中で、私自身が生成AIの不使用を宣言するのは「筋が通っていない」と判断しました。

² “Trapping misbehaving bots in an AI Labyrinth” - The Cloudflare Blog <https://blog.cloudflare.com/ai-labyrinth/>

ChatGPT、Copilot、GeminiなどのLLMをはじめとした、偽りの創造性を謳う生成AIツールについては断じて認めず、使用しません。しかし、そのような生成AIを制する為に必要な生成AIは、我が身と作品を守る為に引き続き使用します。

III. 身近な生成AI使用者との付き合いについて

創作者であっても、生成AIを使用している方は多く見かけます。このような人々に対してどう対応すべきかは、現在検討を重ねています。

使って欲しくないのは勿論の事です。生成AIを使用するという事は、人権の侵害に加担し、環境を汚染させ、戦争に参加する。それが、生成AI使用の『本質』です。

では、（特に直接的に繋がりのある人々は）何故生成AIを使うのか。

私も何度も生成AIの危険性について、ポストやRPをしています。これらが真の意味で届いていないというのが『理由ではない』とは言い切れません。つまり、末端ではありながら周知できてない責任というものが、（たとえポストをミュートされていても）私にもあるという事です。

もしここで私がリムーブやブロックを行えば、彼らが生成AIの危険性を目に入れる手段を閉じてしまう可能性があります。（私がリムーブをすれば、相手が気付いてリムーブ・ブロックする可能性が大いにあります。それがSNSです。）

上記を理由に、現時点で目に余る肯定が観測できない限りは、当アカウントからのブロックやリムーブを行う事は考えていません。

生成AIを危険視する人々の情報発信者の末端として、できる限りを尽くそうと考えています。

さいごに

生成AIによって混迷を余儀なくされる世の中で、生成AIに規制を求める人は世界中に存在します。しかし、生成AIに対立する立場を表明すると言う事は、生成AIを使用する人や肯定する人からのあらゆる攻撃に身を晒すと考え、表明に踏み切れない人も多くいるでしょう。

私も以前は「規制を訴える側であれば明確に表明はすべきだ」と考えていましたが、これには精神的な（時に身体的にも）危険が伴うという考えを欠いていました。

日本政府における生成AIへの立場を見ていれば、日本のマジョリティは生成AIの（怠惰な）使用者であり肯定者である事が分かります。これは、生成AIの規制を訴える人々に対して、非常に大きな逆風の一つとなっています。

全ての人間が、常に同様の水準の勇気を持っているわけではありません。声をあげて活動を継続できる人間はほんの一握りです。そうでない人々が「彼らのようにならなければ」と焦燥に駆られる必要はないし、駆り立てられて戦う理由もありません。

立派であり続けようと努力をしても、あらゆる外的理由で挫ける人もいます。多くの目に晒される事を恐怖に感じる人もいます。

生成AIに対立する立場を取った時、まず必要なのは『常に問題を認識する事』です。

そして、目に見える生成AIを可能な限り避け、もし明日、突然あらゆる生成AIが世界からなくなっても、情緒を乱さず、今日と同じ日常を過ごせるように、今日も生きていく。

そのような地道な活動が、対立の一步になるでしょう。

以上